



希望つなぐ子どもの笑顔、今こそ

8月にアフガニスタン追い続ける写真家の映画会とパネル展

◎チラシあり

ウクライナやガザなど世界各地で平和が脅かされる状況が続くなか、枚方市は大阪初の非核平和宣言都市として平和の尊さを発信することを目的に、フリーの写真家として半世紀にわたり世界の紛争地や辺境の地の取材を続ける長倉洋海（ながくら・ひろみ）さん（71歳）のアフガニスタンでの活動を追ったドキュメンタリー映画を8月7日（水）にサンプラザ生涯学習市民センター（枚方市駅東口サンプラザ3号館5階）で上映する。併せて長倉さんが世界各地の子どもたちを撮影したパネル約50点を3日（土）～15日（木）に中央図書館1階平和資料室（車塚2）で展示する。長倉さんは「大人は戦争をやめようとしなが、どんな辛い状況でも希望をつないでくれる子どもたちの笑顔を今こそ見てほしい」とコメントを寄せる。ともに入場無料で映画は申し込みが必要（定員80人）。7日上映後に長倉さんのトークあり。同日午後3時に展示会場も訪れる予定。
▲8月7日（水）の映画会&トークは、7月8日（月）時点で残席わずか。

★長倉さんは1952年釧路市生まれ。1980年に勤めていた時事通信社を辞めフリーの写真家に。世界の紛争地を精力的に取材し、戦争の表層よりもそこに生きる人間そのものを長いスパンで捉えた写真が高く評価される。1993年にはアフガニスタン抵抗運動の指導者マスードを9年間にわたり寝食を共にしながら取材した写真集「マスード 愛しの大地アフガン」で第12回土門拳賞を受賞。今年に入り第44回巖谷小波文芸賞も受賞している。

★8月7日（水）に上映するドキュメンタリー映画のタイトルは「鉛筆と銃ー長倉洋海の眸（め）ー」。報道カメラマンとして「決定的瞬間を撮りたい」と紛争地帯を転々とする中で、もがき続けながらも、やがて「自分の目の前の人間の心に入っていくことを核に」生活する人々を記録する手法で独自の世界観を切り開いていく長倉さんの軌跡が、マスードらとの交流も交え、自身の語りで叙事詩的に描かれる。

★監督の河邑厚徳（かわむら・あつのり）さんは元NHKエグゼクティブプロデューサーの映像ジャーナリスト。1970年代から幅広いジャンルのドキュメンタリー番組を数多く手掛け国内外での受賞も多い。また、ナレーションの山根基世（やまね・もとよ）さんは元NHKアナウンス室長。「映像の世紀」シリーズなど人気番組のナレーションでも知られる。2023年制作。上映時間は81分。

★ソマリアやレバノン、パレスチナなど60を超える国や地域を取材してきた長倉さんがもっとも長く、そして深い関係を築いたのがアフガニスタン。映画では1983年の渡航からマスードとの交流を中心に描かれ、マスードが暗殺された3年後の2004年に長倉さんが立ち上げたNGO「アフガニスタン山の学校支援の会」の活動にも触れている。

★長倉さんはソ連軍との戦闘が激しかったポーランドという村にある小学校で、窓ガラスも扉もない教室で地面に座ったり石に腰掛けたりしながら真剣に学ぶ子どもたちの姿に心打たれ小学校を支援することに。教職員の給与補助をはじめ、徒歩で片道2時間かかる教師の送迎など学校運営に欠かせない車の購入、そして文具や教材の提供など当初10年を期限に活動。卒業生たちは医療従事者、教師、電気や水道のエンジニアなど、社会を支える存在に成長していった。

★「山の学校」への支援は、その後の延長期間も含め2023年に活動を終了する予定だったが、2021年に再びタリバンが政権を奪取したことにより、弾圧を恐れて子どもたちは家族とともに首都カブールに逃れ、一部の住民は戻ったものの学校は安全とは言えない状況となってしまった。それでも長倉さんは「絶望はしていない。心はふつつつと燃えたぎっている」と支援活動の継続を決意する。そこには「教育を通して平和な国をつくりたい」というマスードの夢を何としても叶える、という強い思いがある。

★映画の上映に併せ8月3日（土）～15日（木）に開催する平和資料室特別展「小さなともだち」では、映画に登場する「山の学校」に届けられた鉛筆を顔の真ん中で握りしめて喜ぶ学校が大好きな「アクバルくん」、ロシア・シベリアの雪原でトナカイや犬と戯れる草原が大好きな「ダリアちゃん」、動物の毛皮で作った帽子を被り化粧をして大好きなお祭りで踊るパプアニューギニアの「パヤベくん」など、長倉さんが撮影した子どもたちの可愛い笑顔の写真パネルが並ぶ。これらは「ともだちみつけた!」というタイトルの写真絵本（アリス館）としてそれぞれ出版されており、写真パネルと併せて展示する。

★平和資料室は、戦時中枚方にあった旧陸軍の禁野火薬庫が1939（昭和14）年3月1日に大爆発を起こし多数の死傷者が発生した悲劇を、決して風化させることなく平和の尊さを次世代に伝えていくことを目的に2006（平成18）年、市立中央図書館1階に開設した。爆発当時の貴重な遺物やパネルなど関連資料を常設展示しており、1982（昭和57）年大阪府内で初めて非核平和都市を宣言するなどいち早く平和施策を展開してきた枚方市の貴重な歴史に触れられる場所となっている。特別展は毎年夏に開催している。

◇特別上映：フォト・ドキュメンタリー「鉛筆と銃 長倉洋海の眸（め）」 8月7日（水）午前10時、サンプラザ生涯学習市民センター（枚方市駅東口すぐ）。無料。7月2日から人権政策課へ市ホームページまたは電話・ファクスで要申し込み（先着80人）。手話通訳、要約筆記、保育（生後6カ月以上の未就学児・先着5人）希望の場合は7月11日までに予約を。字幕・補聴システムあり。上映終了後、長倉さんのミニトークあり。

◇平和資料室特別展「小さなともだち」 8月3日（土）～15日（木）中央図書館1階平和資料室。午前9時30分～午後7時（金曜休館／土・日、祝日、最終日は午後5時まで）。入場無料。7日（水）午後3時～4時に長倉さんが来場予定。

<関連事業> 平和ライブラリーコンサート「Rintロンボーンカルテット」が平和をテーマに演奏。8月6日（火）午後3時～4時、中央図書館 美杉会グループエントランスホール（正面玄関）。無料。当日直接会場へ。

<問合せ> 市長公室 人権政策課 ☎：072-841-1259 FAX：072-841-1700

枚 方 市
平 和 資 料 室
特 別 展

写真家・長倉洋海 小さなともだち

2024(令和6)年

8月3日(土)
~15日(木)

午前9時30分~午後7時
(金曜休館/土・日曜、祝日、
最終日は午後5時まで)

中央図書館1階
平和資料室

京阪バス「片鉾・中央図書館」下車

入 場 無 料

でも、
大人は戦争をやめられない。
子どもたちの笑顔が希望をつなぐ。

アフガニスタン、シベリア、パプアニューギニア…。学校や草原、お祭りが大好きな
子どもたちの笑顔を描き続ける長倉さんの写真パネルなど約50点を展示。

長倉さんと語り合いませんか

8月7日(水) 午後3時~4時
平和資料室/参加無料

申し込み不要
当日直接会場へ

文明の十字路アフガニスタンでソ連と戦った
指導者マスードと仲間たち。彼らとの出会いから
長倉さんが支援を続ける「山の学校」の記録。

監督:河邑厚徳/製作・著作:アフガニスタン山の学校支援の会
ルミエール・プラス/ナレーション:山根基世/2023年/81分

特 別 上 映 / 無 料

フォト・ドキュメンタリー
鉛筆と銃
長倉洋海の眸
8月7日(水) 午前10時
サンプラザ生涯学習市民センター
(枚方市駅東口下車すぐ)
人権政策課へ申し込み(先着80人)
※上映終了後、長倉さんのトークあり。

長倉 洋海 (ながくら・ひろみ) 1952年、北海道釧路市生まれ。京都での大学生時代は探検部に所属し、日本海漂流やアフガン遊牧民接触などの探検行をする。80年に勤めていた通信社を辞め、フリーの写真家となる。以降、世界の紛争地を精力的に取材する。中でも、アフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘスースを長いスパンで撮影し続ける。戦争の表層よりも、そこに生きる人間そのものを捉えてきた。写真集「マスード 愛しの大地アフガン」で第12回土門拳賞を受賞。第44回巖谷小波文芸賞受賞。

<協 力> アフガニスタン山の学校支援の会

<主 催・問合せ・申し込み> 枚方市人権政策課

電話 072-841-1259 ファクス 072-841-1700 Eメール jinken@city.hirakata.osaka.jp

特 別 上 映
申し込みフォーム

